

# 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会会議録

日時：令和元年 10 月 15 日（火） 14：00～16：00

場所：豊明市役所東館 1 階会議室 6

出席者

豊明市商工会 酒井委員、名古屋鉄道株式会社 成瀬委員、経済産業省中部経済産業局 彦坂委員(代理 早水氏)、愛知県政策企画局 竹澤委員、学校法人藤田学園 才藤委員(代理 都築氏)、学校法人桜花学園 根尾委員、連合愛知尾張東地域協議会 佐藤委員、株式会社中日新聞社 平木委員

合計 8 名

(事務局)

< 配布資料確認 >

## 1. 挨拶

(事務局)

本日は岡本委員、光岡委員が欠席、また、才藤委員の代理で都築様、彦坂委員の代理で早川様に出席いただいている。

前回から期間も空き、新たな委員もいるので、簡単に自己紹介をいただきたい。

< 各委員自己紹介 >

ありがとうございました。

変更のあった委員の方には、本来であれば一人ずつ委嘱状を交付するところだが、机上配布としたので確認していただきたい。

任期は前任の委員の残任期間となるので、全委員、令和 3 年 6 月 29 日までとなる。

それでは開会にあたり、根尾委員長よりご挨拶いただきたい。

(根尾委員長)

こんにちは。

現在、ラグビーワールドカップや来年開催されるオリンピック・パラリンピックなどで社会全体が盛り上がっているが、同時に、2020 年以降、人口減少が急激に進行していくことが予想されている。毎年 100 万人近くの人口が減少するとの推計もある。また、自治体の数が 2060 年には 3 分の 1 になるとの予想を行っている資料もある。

そういった中で、豊明市がどのように生きていき、より活性化していくかについて、委員には忌憚のない活発な議論をしていただきたい。

(事務局)

ありがとうございました。

続いて、市長より挨拶を申し上げます。

(市長)

大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

各方面において、豊明市に多大な協力をいただいている団体の方々である。この場を借りて、感謝を申し上げる。

台風 19 号の影響により長野県より東側の地域において甚大な被害が生じている。本市にも境川があるが、治水計画を立てながら、柔軟に治水対策を行っていく必要がある。また、南海トラフ巨大地震への備えを進めていきたい。

日本国土全体で気温が上昇していることや、日本列島の南側の水面が水温も含めて高くなっていることなどもあり、異常気象が異常ではなく、当たり前のように毎年起こる状態となっているが、豊明市では大きな災害が暫く起きていない状況である。

こういったことを踏まえ、豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略は次の 5 年間の計画を立てていく時期に入っているが、今現在、本市の社会情勢が大きく変化している状況ではないため、現行の総合戦略を維持しつつ、よりブラッシュアップした次期計画を策定する形で本市としては進めていきたい。

委員の方々は、それぞれの立場で忌憚のない意見を頂戴できれば幸いである。よろしくお願いたします。

(事務局)

ありがとうございました。

ここからの議事進行は委員長にお願いします。

(根尾委員長)

それでは、まず傍聴の確認を行う。公開の要領に基づき進めていく。事務局より説明を求める。

(事務局)

<「豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の公開に関する取り扱い要領」の説明>

要領に基づき、傍聴者数を5名としていたが、傍聴希望者はなし。

(根尾委員長)

それでは、本委員会は、傍聴者なしとして議題に入る。

議題(1)の説明を事務局より説明を求める。

(事務局)

<議題(1)について説明>

(根尾委員長)

ありがとうございました。

質問や意見はないか。

(才藤委員(代理 都築氏))

エキカツ事業については、学生に意見を聞くと、通りかかった時に楽しそうには見えないが、席が空いていないため自身が参加できるスペースがないという判断をし、素通りしている状況である。

また、巡回バスを運行しても、何かメリットがなければ学生は参加しないと感じる。例えば、市内店舗の参加を募り、期間限定の割引券を発行するなどし、学生に一度利用してもらい、豊明市内の飲食店が、学生にとって楽しめる場所の一つの選択肢として挙げてくるようにきっかけ作りを行うなどはどうか。

(根尾委員長)

学生目線で「入りづらい」という意見は、本学の学生にも聞いてみたが、「入ろうと思ったが席が満席で素通りしてしまった。」「寄ってみたい雰囲気ではなかった。」という意見があった。割引券などがあると学生は喜ぶと思う。

(平木委員)

夜カフェの動画を見た印象では、内輪で盛り上がっていて、少し立ち寄りづらい雰囲気を感じた。

(市長)

オープンスペースであるため、椅子や机も受付せず使えるが、時間制限がないため、早く来た人がずっと座っていて回転が悪く、お店としても、効率的な物販につながっていない。空いている席がないことも問題である。元々、前後駅前広場は、名鉄前後駅の立体化のために作った空間であり、イベントを行うためのつくりになっていない。火の使用がで

きないなどの制限もある。当初の目的として挙げていた集客については、一定の成果をあげているので、次の目的として、賑わいを創出できる若者たちがより多く集う場所とした。その点が課題としてある。

(平木委員)

集客についてはどの程度あるのか。

(市長)

100人規模での参加者はいるが、音楽を聴くなど、ただお客さんが居心地の良い空間に長居するだけの状態になっている。

(根尾委員長)

店の数を増やしたり、若い人向けのお店を出店したりするなどの工夫をしてみてもどうか。

(彦坂委員(代理 早水氏))

中心部の活性化については国全体の課題として多くあり、自治体が様々な取組を行っている。若者は出番があることに甲斐を感じると思うので、若者がパフォーマーとして参加する機会を提供するなど良いのではないか。それにより、学生の友人がイベントを見に来るなどの波及効果もねらえる。

また、ここにしかないような空間づくり、いわゆる「コト消費」のような視点を持ってイベントを実施し、SNS等で発信していくことも効果があるのでは。

(竹澤委員)

学生は自分が参加、体験することに非常に敏感である。商店街と学生のコラボレーションで商品を作るなどの事例があるように、エキカツについても主催者側に学生を取り込むことにより、友人経由での若者の参加者増加につながるのではないか。

(根尾委員長)

藤田医科大学や桜花学園の学生がエキカツに参加している実績はあるのか。

(経済建設部長)

桜花学園の学生については、チアダンスをステージで演舞するなどの形で協力いただいている。ただ、時間が遅いということもあるのか、友人の学生が見に来ているようには感じない。学生に手伝っていただくことに一定の効果は感じているが、来客者の入れ替わりなどの課題は残っている。

(竹澤委員)

豊明市の地方創生基本目標である「しごと活力創生プロジェクト」に関係することだが、平成 30 年度に実施した「県内大学生の就職に関するアンケート」の結果を配布させていた。藤田医科大学や桜花学園を含む県内 50 大学のうち、48 大学の卒業生及び在学学生に回答をいただいているアンケートの結果であり、これをみると愛知県は非常に地元志向が強い土地柄だということが分かる。

一方で、県内大学のうち、本社所在地が東京圏である企業への就業者が 2 割強おり、増加している。東京圏へ就職する学生の属性として、「キャリアアップ」、「自己実現」などの理由が多い。

就職に関する意識についても、働く場所に拘らない学生が増えており、どこで働くかというより、どのように働くか、何を自己実現につなげるかなどを重視している学生が増えてきている。これらを踏まえ、県内市町村も地域一丸となって、施策を実施していく必要がある。

(根尾委員長)

自身の大学の学生についても、多くが地元で就職するという話をしており、東京へ就職するという話はあまり聞かない。

(根尾委員長)

資料 1-6 について「インターンシップ制度の支援事業」はどのようなものか。

(経済建設部長)

名古屋商科大学の学生が、自ら選定したインターンシップを実施している企業にインタビューを行い、結果を冊子にしたものである。平成 28 年度に 1 度だけ実施した。

(成瀬委員)

エキカツ事業について、学生の文化祭の実行委員などのような組織に場所を提供するなどすれば、若者の意見を多く取り入れることができるのではないか。我々としても駅前の活性化についてはできる限り協力したい。

(竹澤委員)

豊明市の地方創生基本目標に関連する意見を 4 点述べる。

豊明市は、軽トラ市、マチリク、ネウボラ、チョイソコなど先進的な取組をされているので、県としてはありがたい。県でも次期総合戦略の策定のため、有識者の意見を聞いた。市町村との意見交換を行ったりしているが、愛知県内産業の国際的な地位に比べると駅前が貧弱であるとの意見があった。まちの玄関口である駅前が活性化されれば自ずとま

ちに品や格が出てくるのではないか。ハード面ももちろんだが、豊明市の「エキカツ事業」のような取組についても継続していくことが良いと感じる。

次に県も同様だが、「選ばれるまち」になる必要があり、県であれば東京、県内市町村であれば名古屋市の真似をする形だと、東京一名古屋間が40分で行けるようになった時、東京と同じであれば東京に行けば良い、ということになってしまう。ここでしか体験できないことや、ここでしか味わえないものをつくっていく必要がある。

また、若い女性が東京圏へ出て行ってしまうことについても課題ではあるが、人を呼び込むだけでなく、一旦東京へ出て戻ってくるといった地盤づくりも必要。これらには、ふるさと意識の向上や、シビックプライドの醸成が重要である。豊明市にいたときの思い出として、花いっぱいのみちや、エキカツで経験、体験したことが根付いていれば、ふるさとの良いものだとして、戻ってくる可能性がある。

3つ目は、人口減少が進む中、地方創生の取組により人口を奪い合っている状態では生産性がないといった意見があり、市部については特に合計特殊出生率をあげていく必要がある。これらは、ネウボラもそうだが、切れ目のない支援を行うことや、出会いや、結婚、子育てを含め、さらに2子、3子を産み育てたいと思うような経済的な安定の確保、環境づくりを切れ目なく行っていくことが大切である。また、県内の近居・同居の割合が多いといわれている愛知県で、豊明市の同居・近居事業のように、周りがフォローを行える環境をつくる取組は、理に適っている。

最後に、2025年には団塊の世代が75歳以上となり、本格的な超高齢社会へ入っていくので、医療福祉はもちろんだが、お年寄りがいきいきと人生を全うできるような就労、生きがいづくりを行っていく必要がある。それについては、移動支援などもしっかりと行い、豊明市には超高齢社会のモデルとなる事業を多く生み出していきたいと考えている。

(才藤委員(代理 都築氏))

市町村の規模、格以上に駅前が活性化している例があれば教示いただきたい。

関係人口の増加についても考えなければならず、自身がイギリスへ行った時、LGBTの方々が、自分達を自由に表現できるお祭りが開催されていた。県内でそのような方々が集う機会や場所を中々聞かない。そういった機会や場所は非常に大切である。医療の場面でもこのような方々への配慮が必要で、職員が気づかず、訪問して初めて分かったなどのケースもあった。そういった方々が、普段の生活はもちろんだが、医療や福祉の場面でも意見を言えるよう、普段からの交流が大事だと感じている。

学生についてだが、学生自身も婚活をしたいといった意見はある。しかし、婚活までいくとハードルが高くなってしまうので、最初の出会いを求める、いわゆる「トモカツ」をしたいと言っている。共通の趣味を持つ人などとカフェ等で交流し友達を作るイベントで、趣味であれば年代を超えてゆるやかにつながる、そういった希望を持っている学生がいる。最近では、直接的に友達を作ることが難しく、少し離れた距離の方が、友達を作りやすいと

いう方々もいる。そういった新たなコミュニティを作る機会や場所が駅前だけにこだわらずあると良いのでは。

(根尾委員長)

モデルのような場所はあるか。

(竹澤委員)

駅前で活況を呈するようなイベントについては、一時的なものはあるが、継続的に行っている場所はあまり存じ上げない。エキカツのようなイベントを鉄道業者の協力のもと、どんどんやっていくことは良いことだと感じる。まちづくりには、「よそ者、ばか者、わか者」が必要だといわれてきたが、商店街、学生、行政など中心となる人がいるまちは新しいことを考え、実施してきている。瀬戸市の陶磁器など、自分達の昔からの資産をうまく活用している自治体もある。

(根尾委員長)

駅にこだわらず、駅を含めたまち全体が活性化するまちづくりといった観点で見ることが大切である。まちづくりの成功例を様々見て回ったが、自治体が旗振り役となり、地元のリーダーの役割の方が実際に動いていくといったまちは成功している。

(竹澤委員)

中核となる人のリーダーシップが強すぎる場合に、その人がいなくなってしまうと急に火が消えてしまうことがある。多世代でリーダーシップを取れる人を複数人育てていく必要がある。

また。補助金で事業を行う場合も、補助金ありきで事業を考えるのではなく、スタート部分に補助金を活用し、2年目、3年目以降に自走していけるような仕組みづくりが必要である。

(根尾委員長)

他に意見はないか。

<質問・意見なし>

ないようなので議題(2)の説明に入る。事務局からの説明をお願いする。

(事務局)

<議題(2)の説明>

(根尾委員長)

ありがとうございます。質問、意見はないか。

(竹澤委員)

県は骨子、審議を11月、素案作成を1月に行い、その後パブリックコメントを経て、2020年度末に次期総合戦略を策定予定。その間に市町村との意見交換会を実施していく予定であるため、その際に県の動向をお伝えする。市総合戦略の参考とされたい。

(根尾委員長)

豊明市については、1月に発表される骨子をベースに、2020年度策定予定でよろしいか。

(事務局)

そのとおり。現行の総合戦略については、第2期の策定まで延長する。

(根尾委員長)

人口の推移については、豊明市は県と比べてどうか。県も減少に転じたと聞いている。

(竹澤委員)

人口自体は増加している。初めて自然減となった。自然減を社会増で補っている形である。

(市長)

豊明市も同様で、自然減を社会増で補っている。

(彦坂委員(代理 早水氏))

国としてSDGsやSociety5.0などの標語を掲げているが、言葉だけにこだわってしまうと雲をつかむような話となってしまう可能性があるため、最終的に自治体は、住民を主役として、地に足のついた施策を実施していく必要がある。そういった意味では、チョイソコとよあけのような事業に注目している。交通弱者や将来的な交通弱者の対策になり、民間協賛企業が多いということもある。自分の車を持って自分で運転をするということは激変期を迎えており、MaaSにも注目が集まっている。この事業は、企業、住民、行政の3方良しという状態を実現できればと感じる。

(根尾委員長)

他に質問、意見はないか。

<質問・意見なし>

ないようなので本日の議題は終了し、事務局へお返りする。

(事務局)

ありがとうございました。以上で委員会を終了する。

以上

# 令和元年度第1回 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

## 次第

日時 令和元年10月15日(火)

午後2時～4時

会場 市役所 東館 1階 会議室6

### 1. 挨拶

### 2. 議題

(1)創生事業平成 30 年度実績報告など

(2)次期総合戦略の策定について

(3)その他

配付資料	<参考資料>総合戦略の位置づけ等
	資料1-1 総合戦略関連の主な事業
	資料1-2 地域ブランドとよあけ花マルシェ推進事業
	資料1-3 駅前賑わい創出「エキカツ」を核とした商工活性・駅周辺機能活性化事業
	資料1-4 エキカツ事業課題シート
	資料1-5 高齢者を中心とした交通不便地域における健康増進・地域経済好循環に向けたオンデマンドライドシェア「チョイソコとよあけ」事業
	資料1-6 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧
	資料2 次期「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定の基本方針

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 委員一覧

令和元年9月22日現在

氏名		所属(役職等)	要件	備考
1	岡本 一彦	あいち尾東農業協同組合 豊明基幹支店長	関係機関及び団 体の代表	
2	酒井 克俊	豊明市商工会 副会長	関係機関及び団 体の代表	職務代理
3	成瀬 友晃	名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部計画部計画課長	関係機関及び団 体の代表	
4	彦坂 謙二	地方創生コンシェルジュ(愛知県担当) 中部経済産業局総務企画部総務課長	関係機関及び団 体の代表	
5	竹澤 功	愛知県政策企画局 企画調整部企画課長	関係機関及び団 体の代表	
6	才藤 栄一	学校法人藤田学園 藤田医科大学 学長	学識経験を有する もの	
7	根尾 文彦	学校法人桜花学園 学芸学部 教授	学識経験を有する もの	委員長
8	佐藤 元紀	連合愛知尾張東地域協議会 副代表	関係機関及び団 体の代表	
9	平木 友見子	中日新聞 日進通信部 記者	関係機関及び団 体の代表	
10	光岡 道則	市民公募	公募により選出さ れた市民	

任期:平成30年6月30日から令和3年6月29日まで

(1) 総合戦略の役割と位置づけ

人口急減、少子化、高齢化に備えるためのもので、2つの計画からなっています。1つ目は人口ビジョンで、目指すべき将来の方向や人口の将来展望を示しています。2つ目は、令和元年度までに取り組む5年間の目標や具体的な施策をまとめた事業計画部分です。この施策の推進のため国も地方創生推進交付金を用意し、地方自治体の取り組みを支援しています。

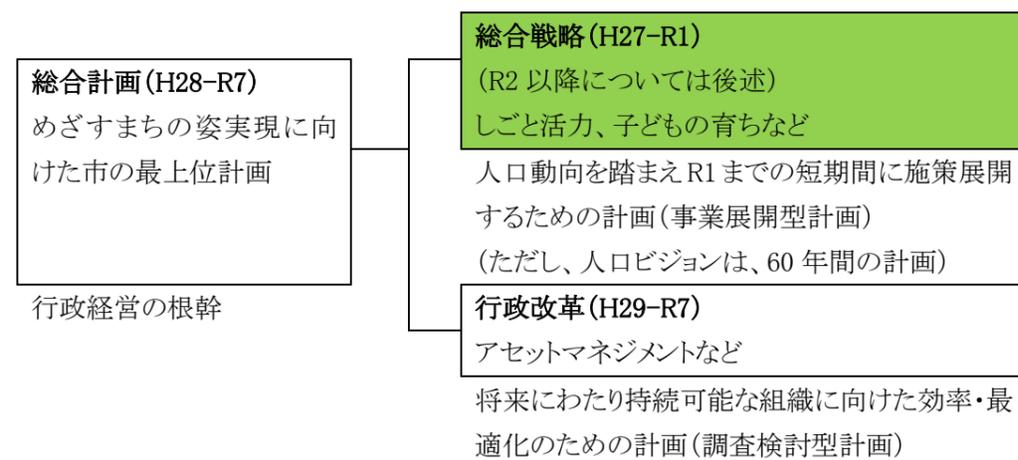
つまり、総合戦略は、豊明市が将来の課題を踏まえつつ、そのために(令和元年度までという短期間の)今、必要かつ実施可能な事業をしっかりと行っていくことを推進するための役割を持つ計画です。

他の主要計画との関連から位置づけを言えば、以下のような役割分担となります。

- ・**総合計画**は、市全体の取り組みを「めざすまちの姿」に向けて行政経営の視点で進めていくという**最上位計画**。
- ・**総合戦略**は、将来的な人口ビジョンを示し、令和元年度までに取り組むべきもの、つまり**短期的に取り組むべき(新規)施策を行うための事業展開型の計画**。
- ・**行政改革**は、行政の効率化と適正化を維持するため、アセットマネジメントをはじめとする**長期的な効率適正に向けた検討・取組**を行うための調査、検討、評価を主体とした計画。

以上の3つの計画を豊明市の行政経営のエンジンとし、短期的にも新規施策を展開し、長期的な効率・適正に向けた検討も進めていきます。

図1 主要3計画の関係



本委員会は、この総合戦略の進行管理を行うために開催するものです。

(2) 総合戦略の進行管理

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部会議及び委員会が進行管理する事業群は次の3つです。

表1 まち・ひと・しごと関係事業

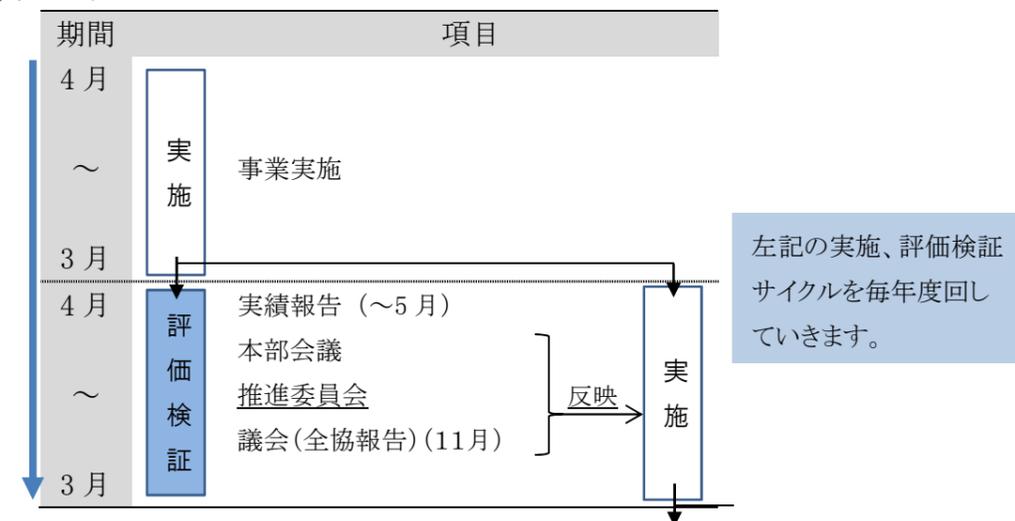
	概要	期間(年度)
管理1	「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に記載及び関連の事業 ただし、当初想定全63事業に留まらず、本市地方創生に資する事業を推進	H27-R1
管理2	総合戦略に位置づけているもので「地方創生推進交付金」に認められた事業 とよあけ花マルシェ事業(令和元年度より再採択) 1事業	H28-H30 R1-R3
管理3	総合戦略に位置づけているもので「地方創生推進交付金」に認められた事業 エキカツ事業、チョイソコとよあけ事業 2事業	H30-R2
管理4	総合戦略に位置づけているもので「地方創生推進交付金」に認められた事業 マチリク事業 1事業	R1-R3

- ① 地方における安定した雇用と労働環境の確保
- ② 地方へ新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ それらを可能にする時代にあった安心な暮らしや魅力ある地域づくり

という国の掲げる4つの目標に向けて、上記3つの事業群を、毎年度進捗を管理して事業展開を進めていきます。加えて、事業の中で可能なものについては地方創生推進交付金の利用検討を進めてまいります。なお、進行管理にあつては、第5次豊明市総合計画と整合を図りながら達成を目指します。

これらの進行管理は次のスケジュールで実施します。毎年実施する本部会議及び推進委員会では、前年度の実施結果及びKPI(成果指標)を報告し今後の実施事業への反映も含めて審議を行うこととします。

表2 スケジュール



左記の実施、評価検証サイクルを毎年度回していきます。

### (3) 事業の展開状況

#### ① 概要

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は4つの目標に対し、それぞれ KPI を定めた事業を 41 設定。これらの事業の進行管理が国より求められています。

4つの目標	指標	重要業績 評価指標 (KPI)	事業数
① しごと活力創生プロジェクト	4	11	20
② ひとが集うまち創生プロジェクト	5	11	17
③ 子どもの学びと育ち創生プロジェクト	5	11	16
④ 暮らしの満足創生プロジェクト	3	8	10
合計	17	41	63

#### ② 展開状況

令和元年度までに、全 63 事業のうち、57 事業を展開。新規施策は 35 事業。地方創生推進交付金採択事業として令和元年度は 4 事業を実施しています。また、上記全 63 事業についての取組状況は次のとおりです。また、63 事業に加えて地方創生に関連する新たな取組みも実施しています。

実施事業	57 事業
新規事業	35 事業
KPI達成状況	78.5%
交付金事業 (採択済)	地域ブランド”とよあけ花マルシェ”推進事業 駅前賑わい創出「エキカツ」を核とした商工活性・駅周辺機能活性化事業 高齢者を中心とした交通不便地オンデマンドライドシェア「チョイソコとよあけ」事業 マチぐるみで雇用定着を支援するコミュニティ・リクルーティング・プロジェクト事業
	(申請中)

#### ③ 主な取り組みの展開状況と成果

- 資料1-1 『「まち・ひと・しごと創生総合戦略」関係事業』主な事業など
- 資料1-2 『「地方創生推進交付金」(とよあけ花マルシェ事業)』
- 資料1-3 『「地方創生推進交付金」(エキカツ事業)』
- 資料1-4 エキカツ事業課題シート
- 資料1-5 『「地方創生推進交付金」(チョイソコとよあけ事業)』
- 資料1-6 H30 創生事業一覧

# 豊明市 総合戦略関連の主な事業

基本目標1 しごと活力創生プロジェクト  
若者が働きがいを感じる企業が多いまちをつくる

企業立地支援に向けて、新体制で新規政策を展開！

## 7 企業立地支援事業【事業開始年度：平成 28 年度】

新たな工場等の立地促進のため、①工場の建設に対する補助金交付制度、②企業訪問及び御用聞き制度、③企業立地に係るワンストップ相談窓口制度等により企業立地を支援。

KPI	計画策定時(H26)	実績値H28	実績値H29	実績値H30	目標値(H31)
新規立地企業数	0	7	9	11	10 企業(累計)

平成 30 年度については、企業再投資促進補助制度及び中小企業再投資促進補助を活用し、新たに 2 件の工場立地に係る支援を行った。

## 11 軽トラ市の開催事業

井ノ花公園及び、桜ヶ丘公園での軽トラ市を開催し、地元商業の新しい掘り起こしを支援している。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
軽トラ市回数	2	4	13	11	4 回/年

## 12 新規就業者の受入れ事業

新規農業者に国策である農業人材力強化総合支援事業により農業次世代人材投資資金を給付し、支援している。また、市の農地バンクの利用要件緩和により、新規就農を斡旋している。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
新規就農者数	1	4	2	3	2 人/年

## 15 とよあけブランドづくり開発事業（推進交付金事業）【事業開始年度：平成 28 年度】

地方創生推進交付金での事業展開をおこない、花マルシェ事業として花関連商品の開発に取り組んだ。

平成 30 年度も、引き続きエディブルフラワーを使った商品を、各店舗が開発し、市内外のイベントで販売を実施。積極的に市域内外に「とよあけ花マルシェ」ブランドを発信した。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
地域ブランド化した商品数	0	3	13	25	15 商品(累計)

## 17 社宅整備等支援事業【事業開始年度：平成 28 年度】

従業員の居住を目的とした社宅について、新規建築、新規賃貸契約した物件の家賃、管理費の一部を補助している。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
年間補助件数	0	2	2	5	10 件/年

## 人材定着支援事業（マチリク）（推進交付金事業）【事業開始年度：令和元年度】

市内中小企業の雇用対策として、新入社員向けに企業横断で研修を行うことで、異なる企業に所属する新入社員の「地域同期」の形成を図り、地域ぐるみで人を育てる事業を展開する。令和元年度は、5 社 10 名が参加。企業の人事担当向け研修を 1 回、新入社員向け研修を 3 回実施した。現在、来年度に向け新たな参加企業を募集している。

**基本目標2 ひとが集うまち創生プロジェクト**  
**誰もが訪れたい、住みたいと思うような、ひとが集う魅力あふれるまちをつくる**

開発検討をはじめ人口増加に向けた取り組みと地域資源を活かした魅力を高める施策を展開！

**21 住居系市街地の整備促進事業**

前後駅周辺における拠点性の一層の向上を図るため、都市機能の集積と多様な住まいの整備促進を図る。現在、前後駅から1km圏内である、間米南部地区において市街地整備の検討が始まっている。

KPI	計画策定時 (H26)	実績値 H28	実績値 H29	実績値 H30	目標値 (H31)
前後駅周辺の居住人口 (500m圏内)	5,921	6,121	6,121	6,121	6,100人

**22 同居リフォーム促進事業 【事業開始年度：平成28年度】**

市内にて新たに三世代以上で同居をするために住宅にリフォーム、増改築等をする方に対し、その工事に要する費用の一部を補助する制度を平成28年4月1日に施行した。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
補助件数	0	2	6	7	30件 (累計)

**23 親との同居・近居購入費補助事業 【事業開始年度：平成28年度】**

親や祖父母、子や孫と同居や市内での近居をするために新たに住宅を新築・購入し取得した場合、取得した翌年度からの家屋の固定資産税相当額の一部を補助する制度を平成28年4月1日に施行した。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
補助件数	0	70	147	261	30件 (年間)

**27 古戦場まつり開催事業**

歴史的観光資産である「桶狭間の戦い」を起点にした古戦場まつりを開催する。令和元年は6月1・2日に桶狭間古戦場伝説地及び高德院等にて開催し、約3万5,000人が来場した。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
来場者数	30,000	20,000	37,902	30,120	32,000人/年

**32 花の街とよあけの推進強化事業（推進交付金事業）【事業開始年度：平成28年度】**

市内事業者や大学、市民団体、行政で立ち上げた”とよあけ花マルシェ”のブランドを広く周知するため、前後駅前広場での花関連イベントや講習会等を10回以上開催した。中でも寄せ植えやフラワーアレンジメントなどの体験会が人気で、毎回定員となっており、年間総参加者数が2000名を超えている。周知活動と並行してエディブルフラワー等、花関連商品の開発も進み市内の洋菓子店等で常時商品購入が可能となるまでに至っている。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
講習会等の参加者数	1,000	2,100	2,771	3,020	2,000人/年

基本目標2 32

花の街とよあけ推進強化事業



基本目標2 27

古戦場まつり開催事業



**基本目標3 子どもの学びと育ち創生プロジェクト**  
**教育環境を整え、子どもを安心して産み育てられるまちをつくる**

女性の働きやすさ、子どもの育ちを支援する新規施策を展開！

**38 病後児保育事業【事業開始年度：平成28年度】**

病後児保育室「えがお」平成28年4月開所。病気の回復期（病状が安定している、回復に向かっている時期）で、医師から病後児保育が可能と診断された子どもを病後児専用施設で一時保育する事業。保育は担当保育士・看護師が行い、病状の変化に対応する。	KPI	計画策定時(H26)	実績値H28	実績値H29	実績値H30	目標値(H31)
	病後児の預かり登録人数	0	141	235	364	200人(累計)

**39 ネウボラ事業【事業開始年度：平成28年度】**

コーディネーターを配置し、地区担当保健師と共に妊娠から	KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
	支援プラン作成件数	0	31	19	13	100件/年

の切れ目のない支援ができるように要支援者については、支援プランを作成する。また、平成30年4月よりファミサポ・ママサポを市役所内に移転したことにより、保健師・ファミサポのトータルサポートが可能となった。

**41 産後ケア事業、産後健診事業【事業開始年度：平成28年度】**

平成28年4月より母子健康手帳交付時、産後健診（1回）の補助券を発行。平成29年度からは医療機関と提携の上宿泊ケア、家事・育児援助を実施。	KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
	産婦健診助成事業による受診率	0	77.5	98.6	103	95%/年

**48 放課後子ども教室事業**

市内小学校児童を対象に放課後子ども教室を開校する。児童クラブとの一体型による運用を行い、業務委託することで児童クラブに通う児童にも通いやすくなるなど、拡充を図る。	KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
	実施校数	5	5	6	7	9校
	ボランティア数(人・団体)	18	39	13	13	40人(団体)

また、趣味や特技を活かした講座の運営や児童の見守りなど、地域の人や保護者等にボランティア登録を推進する。

**50 英語活用能力アップ事業【イングリッシュキャンプ事業開始年度：平成28年度】**

小学生を対象に市内でデイキャンプを、中学生を対象に豊根村の施設や自然を利用したオールイングリッシュでの研修をそれぞれ実施。また、星城高等学校で英語検定対策講座を実施。	KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
	イングリッシュキャンプ参加人数	0	10	29	27	40人/年
	英語検定対策講座延べ参加人数	83	76	56	114	138人/年

**基本目標 4 暮らしの満足創生プロジェクト**  
医療環境、公共交通などを充実し、暮らしの満足度の高いまちをつくる

全国的にも先進的な事業など、暮らしの安心と賑わいにより満足度を高める取組を展開！

**地域公共交通×一般介護予防事業「らくらす」事業【事業開始年度：平成 29 年度】**

通学距離が長い小学生の安全な下校のためのスクールバスと高齢者の介護予防を両立する事業。  
沓掛小学校区の中で通学距離が長い地区は登校時にひまわりバスを使用しているが、下校時にはひまわりバスが利用できないため保護者の迎えなどによって下校していた。このためのバス運行を行うとともに、バスのアイドルタイムには、老人福祉センターなどで行う介護予防事業に参加するための足としての会員制バス運行としても使用するもの。平成 29 年 11 月より運行している。

**オンデマンドライドシェア「チョイソコとよあけ（仮称）」事業（推進交付金事業）**

【事業開始年度：平成 30 年度】

超高齢社会となることが予想される中で、健康でかつ安心して住み続けられる街であり続けるためには、自家用車だけでなく、生活に必要なお出かけのための移動手段を多様な交通モードの組み合わせで実現していくことが必要となる。自宅から鉄道駅・バス停までは遠いが、タクシーは運賃が高いという理由から、自家用車に依存せざるをえない住民がいる。バスよりもきめ細かく、タクシーよりも安価に移動できる公共交通を、病院・薬局・フィットネスなどのヘルスケア関連企業などと連携により実現する平成 30 年度からの新規事業。実証実験が、7 月にスタート予定。

**55 医療・福祉・高齢者等の生活支援拠点整備事業（けやきいきいきプロジェクト事業）**

【事業開始年度：平成 26 年度】

豊明団地を医療福祉の拠点とするべく、行政・UR・藤田保健衛生大学が連携して取り組みをすすめている。団地内には、大学が住民の健康相談窓口として「まちかど保健室」を運営。大学の学生約 80 名が団地に居住し、コミュニティ活動に参加している。平成 27 年度に「北部地域包括支援センターブランチ」を設置。平成 29 年 7 月に「豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし」を業務開始。

KPI	計画策定時 (H26)	実績値 H28	実績値 H29	実績値 H30	目標値 (H31)
高齢者等の相談件数	0	831	1,479	1,064	500 人/年

**56 駅前賑わい創出事業（推進交付金事業）【事業開始年度：平成 28 年度】**

ハロウィンイベントやクリスマスイルミネーション、変わり菊まつりなど、前後駅前広場でイベントを開催。駅活イベントは駅活実行委員会が実施主体となり、Jazz の生演奏や軽食やアルコール販売の出店、名古屋短期大学の学生の協力による演出など好評を得ている。平成 30 年度からは、事業内容を具体化したエキカツイベント「駅前 夜カフェ」が地方創生推進交付金に採択され、平成 30 年度は年 8 回実施、令和元年度についても年 8 回実施予定。

KPI	H26	H28	H29	H30	H31 目標
マルシェの参加出店数	0	14	27	45	80 店（累計）

基本目標 4 56

駅前賑わい創出事業



基本目標 4

オンデマンドライドシェア「チョイソコとよあけ（仮称）」事業



地域ブランド”とよあけ花マルシェ”推進事業  
「地方創生推進交付金」(28年度-30年度)

1. 概要

花マルシェ事業は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置づけた事業「花の街プロジェクトの推進」を具体化したもので、平成28年度「地方創生推進交付金」に採択された。3年間事業合計11,850千円交付。1/2補助。H30交付額2,100千円である。具体的な取組内容は次のとおり。

2. 実績と評価認識

(実績)

	事業内容	決算 (千円)
28年度 1年目	・商品開発に向けた専門家の指導・助言による商品企画、試作、デザイン等の支援	450
	・エディブルフラワーの市内生産拡大及び流通拡大に向けた資材購入費等支援	450
	・花関連イベントの会場設営及び運営費	1,350
	・運営経費 (合計)	1,200 3,450
29年度 2年目	・プロモーション及び花関連イベントの企画運営	1,000
	・エディブルフラワーの市内生産拡大及び流通拡大に向けた資材購入費等支援及び新商品の試作	800
	・エディブルフラワーの消費拡大のための支援及び市場調査、商品企画アドバイス等	710
	・普及啓発グッズの作成(紹介冊子 10,000部等)印刷費	400
	・普及啓発グッズの作成(のぼり等 30本等)消耗品費 ・運営経費 (合計)	90 1,200 4,200
30年度 3年目	・プロモーション及び花関連イベントの企画運営	1,100
	・エディブルフラワーの市内生産拡大及び流通拡大に向けた資材購入費等支援及び新商品の試作	700
	・商品開発に向けた専門家による指導・助言により商品企画、試作、デザイン等の支援等(販路開拓を含む)	710
	・普及啓発グッズの作成(紹介冊子 10,000部等)印刷費	490
	・運営経費 (合計)	1,200 4,200

(評価認識)

平成28年7月に豊明市商工会事業である前身の「花の街とよあけ推進協議会」から、事業を発展的に引継ぎ、花の街をイメージ付けるイベント運営に加え、地域経済活性化のための商品開発と販売を加えた“とよあけ花マルシェ”事業を展開した。

当該交付金では“とよあけ花マルシェ商品”として、花をモチーフとした商品(主に食品)の開発を行った。商品開発では、試作に掛かる費用面の補助を行うとともに、飲食店経営者やシェフを招聘し、勉強会を開催。専門家に試食を行ってもらうことで、味・品質・形体・パッケージなどの「売り」につながるアドバイスを受け、商品に改良を加えてきた。平成29年度には、市内8事業者が全13商品を開発し、現在では常に市内で花マルシェ商品が購入できる状態にある。また、上記の内8商品は豊明産エディブルフラワーを使用しており、より強く地域性をだすことで他商品との差別化を図っている。

商品開発と並行して、花への関心向上及び交流人口の増加、“花の街”イメージを定着させるため、市内で年間10回以上の花をコンセプトにしたイベントを開催。中でも平成29年3月に開催した「とよあけ花マルシェ」は、来場者1,000名を達成。平成30年度では、1,450名と来場者が増加する傾向となった。

イベント以外にも、市外等への出展を積極的に展開、地下鉄東別院にあるメーテレいも物産展に連続して2回出展。イオン大高店にも出展するなどした結果、総接触数は133,027名(交付金対象外事業含む)に達した。

プロモーションでは、テレビ局での取材を含め、たくさんのメディアからの注目が集まり、新聞や雑誌に掲載され発行された部数は、1,112,466部となり、広く認知された。

豊明市で生産されたエディブルフラワーの認知度は、イベントでのアンケートでは概ね80%程度となっており、平成30年度の年間売り上げは約83万円となった。

3. KPIの推移

	平成29年 3月末目標	平成29年 3月末実績	平成30年 3月末目標	平成30年 3月末実績	平成31年 3月末目標	平成31年 3月末実績
とよあけ花マルシェ 商品の販売金額 (累計)	200千円	100千円	3,200千円	1,331千円	9,200千円	4,321千円
とよあけ花マルシェ 商品の取り扱い店舗数 (累計)	5店舗	1店舗	20店舗	8店舗	40店舗	10店舗
とよあけ花マルシェ 開発商品数 (累計)	3商品	3商品	10商品	13商品	15商品	25商品

#### 4. H30 年度の主な取組み

##### ・PR 活動・花関連イベントの開催

珍種かきつばたまつり、変わり菊まつりは、前後駅前広場で花の展示と合わせて花苗の販売や寄せ植え体験教室など花に親しむ催しのほか、エディブルフラワーを使用した菓子等を販売して花マルシェのPRを実施した。

花に親しむ習慣を広めるため、ハロウィンフラワーアレンジメント、香りのキャンドル、お正月寄せ植え、フラワーバレンタインなど季節に合わせた花の講習会を企画し、多くの方に参加していただいた。

##### ・エディブルフラワーの生産及び流通拡大に向けた支援

農協のエディブルフラワー生産者が調達する苗や肥料、出荷用パック等資材の購入費を補助し、エディブルフラワーの生産体制の整備を進めた。流通においては飲食店や菓子店での提供であったところ、農協の一部で一般向けの販売が開始されている。

主催イベントのかきつばたまつりと変わり菊まつりや市外への出展では、エディブルフラワーを使ったお菓子の販売のほか、エディブルフラワーの試食を行い、実際に食べてもらうことで一般の方への普及に努めた。

<購入苗>

食用菊、エルダーフラワー

<資材>

ハウス防虫ネット、培土、エディブルフラワー出荷資材、肥料・農薬等、プランター、鉢底給水設備、エディブルフラワー生産用ハウス使用料

##### ・エディブルフラワーの消費拡大のための支援及び市場調査、商品企画アドバイス等

これまでに制作した商品を市内外のイベントで販売し、消費者ニーズの検証や試売による商品の改良を行った。また、市内外のイベントに出展し、商品やとよあけ花マルシェ自体をPRすることで、認知度の向上に努めた。

#### <主催イベント開催及び市内外イベント出展における来場・参加者数>

1. 主催イベント			
開催日	イベント名	開催場所	来場・参加者数
4月19日	春の花が集まる花き市場と珍しい桜の小道散策ツアー	花き市場	30
5月6日	珍種 かきつばたまつり	前後駅前広場	1,000
8月28日	親子花育セミナー	花き市場	152
10月26日	ハロウィンフラワーアレンジ	商工会	19
11月10・11日	変わり菊まつり&コンテナガーデンコンテスト	前後駅前広場	1,700
12月2日	香りのスワッグ講習会	商工会	25
12月22日	冬のコンテナガーデン講習会	商工会	42
2月13日	男性限定フラワーアレンジ講習会	花き市場	30
3月16日	花文化アドバイザー養成講座	花き市場	22
<b>合 計</b>			<b>3,020</b>
2. 市内外出展関係			
開催日	イベント名	開催場所	来場・参加者数
7月7日	豊明ステークス	中京競馬場	9,338
8月11日	阿野マルシェ	J A あいち尾東阿野支店	200
9月28日	メーテレいいもの物産展	メーテレ本社屋	10,000
10月20日	グリーンフェスタ	勅使水辺公園	525
10月28日	メーテレいいもの物産展	メーテレ本社屋	15,000
10月1日 -11月30日	東急ハンズ	東急ハンズ3店舗	-
12月14日	イルミネーションナイト	前後駅前広場	514
2月23日	あいち尾東農協20周年記念 農 Knowカーニバル	愛地球博記念公園	16,000
3月21日	イオン大高店	イオン大高店	50,000
3月23日	とよあけ花マルシェ	商工会	1,450
3月24日	高松宮記念	中京競馬場	30,000
<b>合 計</b>			<b>133,027</b>

## 5. 令和元年度以降の展開

### (1) 令和元年度以降の方向性

とよあけ花マルシェ事業の目標は、豊明市に「花マルシェ」というイメージの定着を図り、足を止めてもらえる街にすることで交流人口を増やし、地域経済を活性化することにある。この目標を達成するため、これまで3か年に亘り、花関連商品の開発やイベントを開催してきており、その結果として、花マルシェ商品の販売金額の累計は、4,321千円、開発した商品数は25商品にまで増加させることができた。

しかし、とよあけ花マルシェのブランドとしての認知度は十分とは言えず、地域経済の活性化にまでつなげるには至っていない。

そこで、令和元年度からの3か年では、市民参加型の事業を展開することで、市民全体で「とよあけ花マルシェ」を育み、花の街としてのブランディングと地域経済の活性化につなげていく。

### (2) 令和元年度の事業

#### 【イベント開催】

9月までに開催したイベントでは、市場見学&桜小道散策ツアー、珍種かきつばたまつり、親子花育セミナーなど、昨年度までの事業の中で人気のイベントを開催することで、事業の認知度向上を図った。

10月以降は、市民参加型事業として、「とよあけ花マルシェウィーク」として一定期間中に市内各所で様々なイベントを開催すると同時に、11月9日(土)には豊明花き市場をメイン会場とした「とよあけ花マルシェ」というイベントを開催する。

このイベント企画は、市民参加を募り、集まった市民18人の企画案を反映させたものとなっており、当日のスタッフとしても参加してもらう予定である。

こうしたイベント開催は、実際に花に触れることで花文化の醸成を行うことで、花の街であることを誇りに思えるような、魅力ある街づくりを市民と一緒に育んでいくことができる。

#### 【地域経済の活性化】

過去3年間においても、市内外のイベントに出展し、花マルシェ商品の販売を展開してきたが、昨年度は、花マルシェ事業に参加する店舗においてスタンプラリーを実施した。参加店舗からも好評で、花マルシェ商品の知名度アップにも繋がることから、今年度も実施することで、花関連商品の販売・地域経済の活性化を行っていく。

とよあけ花マルシェ事業の目標は、豊明市に「花マルシェ」というイメージの定着を図り、足を止めてもらえる街にすることで交流人口を増やし、地域経済を活性化させることにある。この目標を達成するため、これまで3か年に渡り、花関連商品の開発やイベントを開催してきた。

これまでの事業では、花関連商品の開発と販売に注力してきたが、花マルシェの知名度不足により、販売につながらなかった。平成31年度からの3か年では、イメージの定着に力を入れ、知名度を向上させることにより、花関連商品の販売・地域経済の活性化につなげたい。

駅前賑わい創出「エキカツ」を核とした商工活性・駅周辺機能活性化事業  
(地方創生推進交付金 (H30 年度-R2 年度))

1. 概要

事業は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置づけた事業「駅前賑わい創出事業」を具体化したもので平成 30 年度「地方創生推進交付金」に採択された。

3 年間事業合計 5,300 千円交付。1/2 補助。H30 交付額 1,500 千円である。具体的な取組内容は次のとおり。

2. 推進交付金申請までの取組み

【前後駅の状況】

- ・交通結節点である前後駅の年間利用者数は、名鉄名古屋本線での急行停車駅としては最多である。
- ・駅周辺の商店街は空き店舗が年々増加して活気を失っている状態となっている。
- ・前後駅利用者の多くが通勤通学で通過するのみとなっている。
- ・前後駅は各計画において、市内の高齢者等自動車を使えない層や子育て世代の生活利便性の向上を図り、都市活力の創出及び持続的な発展を支える都市づくりの拠点となることが求められている。

【これまでの前後駅活性化事業】

- ・平成28年度より、豊明市を盛り上げたいという有志の集まりで組織された駅活実行委員会を発足。
- ・駅前から賑わい創出と商業の振興を実施、豊明市全体の活性化を目指し、駅活イベントを実施。  
駅活イベントでは、空間作りをコンセプトとした夜カフェ、親子で楽しめるイベント(ハロウィンイベント)等の実施を行っている。平成 28 年度では 4 回実施、平成 29 年度では 8 回実施した。

【地域再生計画及び推進交付金活用による発展策の検討】

- ・駅前賑わい創出「エキカツ」を核として、駅を活用し、市民の活躍の場の提供を目指す。
- ・豊明市全体の活性化を図り、市外に対して豊明の個性・魅力を知ってもらう。
- ・市内向けにはシビックプライドを刺激し向上させることで、豊明市が選ばれるまちになるための事業を行う。
- ・前後駅前活性化を契機に、賑わい創出を市内全体への経済循環及び新たなビジネスの創出を目指す。
- ・駅周辺機能充実による中心商業地域の活性化、市内経済活性化を目指す施策を実施する。

◆駅活実行委員会での駅活イベントの実施

- ・駅周辺での賑わい創出及び経済循環に繋げるために、市内への人の誘導策を実験的に事業展開する。

◆市内飲食店等への誘導施策

- ・市内飲食店及び交通事業者と連携し、イベント来場者を市内へ誘導する施策を実験的に展開する。
- ・市内飲食店への経済循環を目指し、輸送手段及びサービスの拡充を図る。

◆駅周辺機能充実施策

- ・駅活イベントにおいて、アンケートによる駅周辺機能のニーズ調査を行う。
- ・上位計画の目標である「めざすまちの姿」と整合を行い、必要な機能実現のためのワークショップを行う。
- ・先進都市の事例による視野の拡大及び成功スキームの共有を行い、総合的な駅周辺活性化を検討する。

3. 地方創生推進交付金採択内容

時期	事業内容	予定 (千円)
H30 年度 1 年目【実績】	<p>●現状把握</p> <p>「駅前活性化推進事業に関するアンケート調査」 実施期間:平成30年8月1日から8月24日まで 対 象:藤田医科大学各学部1年生666名 星城高等学校1年生389名 回 答 率:藤田医科大学83.4% 星城高等学校84.9%</p> <p>前後駅を通学として利用する藤田医科大学と星城高等学校の学生(1年生計1,055名)を対象に「前後駅周辺」、「駅前夜カフェ」、「駅前周辺に求めること」についてのアンケート調査を実施した。「前後駅周辺」では、前後駅周辺の店舗等の利用率は72%の学生が「利用しない又はほとんど利用しない」と回答し、過半数を超える学生が前後駅周辺を全く利用しない事がわかり、現時点で前後駅周辺の店舗に魅力を感じていない現状が浮き彫りとなった。「駅前夜カフェ」では、駅前夜カフェの認知度について51%の学生が「知っている」と答えたものの参加率は「知っている」と回答したうちの10%となっており、認知度に対して参加率の低さが課題として抽出された。「駅前周辺に求めること」では、飲食店やカフェを求める回答が多く、購買意欲は存在することがわかった。また、学生の多くが「スターバックス」と固有名詞で回答するケースが多く見受けられた。</p>	3,000
	<p>●事業の周知</p> <p>名古屋市近隣市町村懇談会における事例発表 名古屋市近隣市町(40市町村)の懇談会にて「駅前賑わい創出『エキカツ』を核とした商工活性・駅周辺機能活性化事業」を発表し、近隣市町への事業 PR を行った。 発表後のイベント時には、視察のため3件(名古屋市・刈谷市・蟹江町)の自治体にお越しいただいた。 その他、平成30年度地域活性化事業集「人口の社会減を克服する特色ある取組」((一財)地方活性化センター)の事例として掲載された。</p> <p>●エキカツイベント「駅前 夜カフェ」の実施 開 催 日 時:平成30年7月19・20・21日、8月29・30・31日、10月18・19・20日 ※8月31日については雨天のため中止 来場者総数:3,850名 市内飲食店等への誘導施策:ワンコインタクシーの実施 実 施 件 数:5台 経済循環値:88,000円</p>	

駅前夜カフェ実施詳細:

平成30年度については、9回のイベント開催を予定し、天候での中止を除き8回の開催を行った。イベント実施にあたり、豊明市民の活躍の場の創出を考え地元大学の「桜花学園ダンス同好会」や、豊明市出身アーティスト「愛笑む」、豊明市広報大使「よしかねたくろう」等豊明市に縁のある出演者によるパフォーマンスの実施を行った。10月20日のイベントでは、前後駅に隣接する商業施設であるパルネスと協働し、ハロウィンイベントを開催した。

●その他波及効果(駅前広場の利用率)

駅活実行委員会で培ったノウハウを活用し、他団体による駅前イベントの開催に繋がった。(豊明青年会議所による職業体験イベント『豊明ワクワクWork』10月21日開催)

21年度  
2年目

●駅活実行委員会での駅活イベントによる社会実験

- ・駅活実行委員会による駅活イベント実施規模の拡大を図る。
- ・駅南側への賑わい創出の検討・実施を行う。
- ・商業施設と協働実施を図る。

【経費概算:駅活イベント実施運営費300万円】

●市内飲食店等への誘導施策

- ・市内飲食店等への誘導施策のシステム構築を目指す。

【経費概算:バス借用費30万円(10日間想定、運転手費用含む)・事業PR啓発物品15万円・事務費5万円】

●駅周辺機能充実施策

- ・産官学連携事業を実施し、イベントの拡充及び将来的な駅周辺機能充実を図る。
- ・総合的な駅周辺活性化の検討を協議する場を調整する。

【経費概算:創業支援・資金調達講習会運営費20万円(講師謝礼等含む)】

4,000

22年度  
3年目

●駅周辺活性化を検討する協議会による新しい体制での駅活イベントによる賑わい創出の実施

- ・従来の実施に加え、広域連携を目指した事業の実施を行う。

【駅活イベント実施運営費300万円】

●市内飲食店等への誘導施策

- ・市内飲食店等への誘導施策のシステムを構築する。
- ・市内飲食店等への商工振興施策及び広告による周知を行う。

【広告制作費10万円・負担金20万円】

●駅周辺機能充実施策

- ・総合的な駅周辺活性化を検討する協議会による多分野での活性化を目指すワークショップ等の実施を行う。
- ・駅周辺賑わい創出を対象とした創業支援を行い駅周辺での出店を促す。

【ワークショップ運営費30万円】

3,600

4. KPI

	平成30年 指標値	平成31年 平成31年 3月末実績	平成32年 平成32年 3月末目標	平成33年 平成33年 3月末目標
駅前周辺での飲食店の出店(事業内での講習会参加者からの出店を検討)	0件	実績:0社 目標値:0社	1社	4社
市内飲食店等への誘導施策利用者による飲食店への経済循環	0円	実績:88千円 目標値:300千円	300,000円	400,000円
駅前広場の利用率	14.7%	実績:3% 目標値:1%	2%	2%

5. 活動の様子(写真)

エキカツイベント(賑わい創出イベント夜カフェ)



## エキカツ事業課題シート

地方創生推進交付金事業である「エキカツ」の交付金事業は、国からも評価検証、それを踏まえた改善が求められています。事業担当課において現状の課題についてまとめましたので、今後の事業の更なる発展に向けご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

### 「事業名 エキカツ」

1. 苦勞していることや課題だと感じており解決したいこと

★客層の固定化と外的要因による課題

4年目となるエキカツですが、認知度が上がってきておりイベントとして定着してきてはいるが、客層が固定化しており新規来場者層を獲得出来ていない状態である。また、通学に前後駅を利用する学生が足を留めづらい状態になっているように思われる。色んな年齢層が共存できる策があればいただきたい。

また、天候の影響での中止が事業推進にあたりネックになってきている。施設の構造上改善出来ない点が多いが、新たな視点での検討策等があればいただきたい。

2. 今後の事業の展開について委員から意見が欲しいと考えていること

★イベントでの賑わいは一過性に過ぎないため今後、豊明市全体に賑わいを創出するためには地元事業者の意識が変わっていく必要があると思われる。地元事業者に対しての意識付け、モチベーションの向上について意見を頂戴したい。

高齢者を中心とした交通不便地域における健康増進・地域経済好循環に向けたオンデマンドライドシェア「チョイソコとよあけ（仮称）」事業  
（地方創生推進交付金 H30年度～R2年度）

1. 事業概要

高齢者等お出かけに不便を感じている住民の生活維持と健康増進を図るため、お出かけ目的と目的地への足の確保をセットにした、オンデマンド型乗合タクシー事業を実施する。

オンデマンドライドシェアのシステム（車両の位置から予約乗降場所を最短かつ合理的にまわるルートと乗降場所への到着予想時間を割り出し、車両に搭載したタブレットにデータ転送するシステムで、アイシン精機株式会社が自費で開発済み。）とその管理及びオペレーターをアイシン精機株式会社が整備する。タクシー事業者は、ジャンボタクシー車両（本市が所有し貸与）に搭載したタブレットのナビゲーションに従い、予約した住民を乗り合わせて目的地に送迎する。乗車場所は、地域のゴミステーションなど高齢者等の移動の負担にならない地点とし、目的地は、協賛企業（病院、薬局、フィットネスクラブなどヘルスケア関連を想定）や駅・市役所などの交通拠点、スーパーなど生活に必要な店舗とする。

2. 実績と評価認識

（実績）

事業内容		決算 (千円)
H30年度 (1年目)	・協賛企業募集（協賛企業等掲示用ポスター等印刷製本費）	45
	・車両購入費（2台）	4,174

（評価認識）

本事業の実施にあたり、本市の新たな交通モードとして全国に展開していくことを考えたときに、他自治体でも起こりうる既存公共交通との共存について、交通事業者が互いに敵対するのではなく、「高齢者の積極的な外出」という観点において共栄できるルールづくりのため、運行計画を策定。その際、市内各事業者間での調整に時間をかけたため、当初は2019年1月からの開始予定であったものが、2019年3月からの事業開始となったため、年間利用者数のKPIは未達成となった。

一方で、2019年3月までに、アイシン精機、スギ薬局との協働により、協賛企業となる市内事業者に対する事業内容の周知及び協賛依頼や、町内会単位での説明会の開催による利用対象者への周知を徹底して行った結果、協賛企業数及び利用登録者数のKPIは達成となった。

3. KPI の推移

	平成30年度末 目標	平成30年度末 実績	令和元年度末 目標	令和2年度末 目標
年間利用人数	2,400人	41人	12,400人	20,400人
協賛企業数(累計)	10社	31社	15社	20社
利用登録者数(累計)	400人	751人	2,400人	3,800人
利用登録者のうち、お出かけしやすくなったと感じた人の割合	50%	50%	60%	67%

4. 今年度以降の取組予定

本事業は、お出かけ目的と目的地への足の確保をセットにした、オンデマンド型乗合タクシー事業であり、通院や買い物、運動以外に、いかに高齢者にとっての外出目的を創出するかが利用者人数を増やすための鍵となる。そのため、協賛企業と連携し、利用促進及び来客誘導策（例えば、フィットネスなら個人や高齢者に特化したメニュー、クリニックでは無料検診や健康診断、スーパーなら健康商品の割引など企業のアイディアによる利用促進等）を図り、利用者の増加に繋げる。

事業内容		予定 (千円)
R1年度 (2年目)	・利用案内及び協賛企業募集（印刷製本費）	300
	・公共施設や市内主要交通結節点をライドスポットとする運行の実施（負担金）	9,600
	・高齢者実態調査委託	4,200
R2年度 (3年目)	・利用案内及び協賛企業募集（印刷製本費）	300

5. その他参考



チョイソコとよあけ車両



車両を使用した地域説明会

# 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

## ● 基本目標 1 しごと活力創生プロジェクト ～若者が働きがいを感じる企業が多いまちをつくる～

<基本目標の進捗状況>

指標	策定時 (H26 年度)	H28 年度	H29 年度	現状値 (H30 年度)	目標値 (R1 年度)
法人市民税額	687,361 千円	584,111 千円	621,426 千円	598,023 千円	699,370 千円
起業・創業件数	80 件	54 件	28 件	49 件	100 件
市内就業者のうち市内在住者	1,529 人	1,341 人	1,486 人	1,647 人	1,775 人
市民のうち市内で働きたいと思う若者の割合	48.3%	58.7%	53.1%	53.4%	55.8%

<施策ごとの重要業績評価指標 (KPI) の進捗状況>

施策 1. 地域の経済活動が盛んなまちをつくる

担当課・室	No.		事業名	事業内容	KPI ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	KPI				目標値 R1
						H26	H28	H29	H30	
産業支援課	1	新規	後継者育成・マッチング事業	大学生を対象にした企業説明会の実施	マッチング件数	0	3	3	3	20 件(累計)
産業支援課	2	新規	起業・創業者支援事業	創業支援事業計画に基づき、創業セミナーを行う。	創業支援事業計画による創業支援対象者数	0	36	31	18	50 件/年
産業支援課	3	新規	空き店舗を活用した活性化事業	空き店舗活用による事業に対する賃料補助を実施する。	空き店舗活用補助件数	0	1	0	0	2 件/年
産業支援課	4	新規	市内中小企業の人材育成支援事業	新しい分野に挑戦したい事業主や販路拡大を図る事業主をバックアップすること並びに商工会の将来を担う人材を育成することを目的とし、豊明市商工会に受講者を推薦してもらい、短期ビジネススクールを受講させる。受講後は、商工会の会議等で会員へフィードバックすることで、他の会員の意識啓発を図る。(10～30人程度)	受講者数	0	4	4	4	20 人(累計)
産業支援課	5	継続	工業経営塾の実施事業	工業系の事業者、後継者を対象にこれらの方々の育成を図るために年3回程度のセミナーを開催し、制度や運営のためのイロハをレクチャーする。	参加者数	20	12	0	0	15 件/年
産業支援課	6	継続	プロフェッショナル人材等の就職支援事業	・職業紹介事業の継続 ・企業説明会の実施	無料職業紹介件数	158	47	70	22	170 件/年
産業支援課	7	新規	企業立地支援事業	市内外の企業(製造業等)による新たな工場等の立地(既存企業の第二工場等の建設、移転を含む。)を促進させるべく、以下の体制を整備するとともに、当該事務の実施について市内企業のほか、市外及び県外企業に向けてPRを行う。 (1)工場の建設に対する補助金交付制度 (2)企業訪問及び御用聞き制度 (3)企業立地に係るワンストップ相談窓口制度	新規立地企業数	0	7	9	11	10 企業(累計)
産業支援課	8	未	市内居住者雇用奨励制度の整備事業	雇用、求人状況の把握(小規模企業実態調査28年度予定)したうえで、奨励金制度を創設する。	新規雇用者数	0	0	0	0	20 人(累計)

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

担当課・室	No.		事業名	事業内容	KPI ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	9	新規	小規模企業実態調査	市内小規模企業者を対象にした実態調査を継続的に実施し、小規模企業の振興を図る。 調査内容 … 経営形態、経営状況、承継状況等 調査対象 … 市内小規模事業者 約 1,800 事業所	経営改善事業者数	0	0	0	0	100(累計)
産業支援課	10	継続	ひきずり鍋の普及事業	ご当地グルメ委員会(商工会)の推奨するご当地グルメ「ひきずり鍋」について各イベント等で振舞うなどPRし、周知をはかる。	参加店舗数	11	11	11	11	15 店(累計)
産業支援課	11	継続	軽トラ市の開催事業	井ノ花公園及び桜ヶ丘公園での軽トラ市を開催し、地元商業の新しい掘り起こしを支援する。	軽トラ市回数	2	4	13	11	4 回/年
農業政策課	12	継続	新規就農者の受入れ事業	新規就農者に対し、国策である農業人材力強化総合支援事業により農業次世代人材投資資金を給付し、支援している。 また市の農地バンクの利用要件緩和により、新規就農を斡旋している。	年間新規就農者数	1	4	2	3	2 人/年
産業支援課	13	未	「とよあけ道の駅」設置検討事業	豊明南口の賑わい創出と併せた検討の実施。	計画策定の進捗率	0	0	0	0	計画策定
産業支援課	14	未	消費喚起プレミアム商品券発行事業	実施については、交付金の有無により決定する。 販売方法、販売額、販売冊数など課題が多く整理が必要。						
産業支援課	15	継続	とよあけブランドづくり開発事業	先行事業により 27 年度に策定する推進計画に基づき実施する。	地域ブランド化した商品数	1	3	13	25	15 商品(累計)

施策 2. 若い人たちの地元での就労を促進する

担当課・室	No.		事業名	事業内容	KPI ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	16	継続	職業訓練学校等への入学支援事業	現行の愛知県建設職業訓練校運営支援負担金を継続する。	訓練生数	1	1	0	0	2 人/年
産業支援課	17	新規	社宅整備等支援事業	従業員の居住を目的とした社宅について、新規建築、新規賃貸契約した物件の家賃、管理費の一部を補助する。	年間補助件数	0	2	2	5	10 件/年
学校教育課	18	継続	中学生の職場体験事業	市内、市外へ全中学2年生による職場体験の実施	職場体験実施事業所数(延べ数)	216	221	215	207	256 箇所/年
産業支援課	19	新規	インターンシップ制度支援事業	学校連携を基にしたインターンシップ制度の検討	受入参加企業、団体数	0	15	0	0	10 社/年
産業支援課	20	新規	市内企業への就職活動支援事業	企業合同説明会を実施する。 (大府市・日進市、みよし市、長久手市、東郷町との合同開催予定)	企業合同説明会等開催回数	0	1	1	2	5 回/年

# 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

## ● 基本方針 2 ひとが集うまち創生プロジェクト

<基本目標の進捗状況>

指標	策定時 (H26 年度)	H28 年度	H29 年度	現状値 (H30 年度)	目標値 (R1 年度)
転出者数 (年間)	3,281 人	3,069 人	3,497 人	3,302 人	2,996 人
転入者数 (年間)	3,327 人	3,288 人	3,369 人	3,443 人	3,626 人
桶狭間古戦場関連の観光客数 (年間)	44,000 人	38,926 人	58,684 人	45,160 人	50,500 人
ふるさと納税の寄附金額	92 千円	35,168 千円	21,325 千円	22,626 千円	50,000 千円
市内のイベント、お店、施設がメディアで紹介された件数	123 件	240 件	211 件	418 件	148 件

<施策ごとの重要業績評価指標 (KPI) の進捗状況>

施策 1. 若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を活かしたまちづくりを推進する

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標 (アウトカム)	K P I				目標値 R1
						H26	H28	H29	H30	
市街地整備課	21	新規	住居系市街地の整備 促進事業	前後駅周辺における拠点性の一層の向上を図るため、都市機能の集積と多様な住 まいの整備促進を図る。導入する都市機能は、物販・飲食だけでなく、旅行代理店、 地場産品の直売施設、子育て支援施設、駅前保育施設、高齢者施設、若者の居場 所、情報発信施設、在宅ワーク、小規模オフィスなどから、地域特性や利用者のニー ズなどを踏まえ総合的に勘案して選定する。 現在、寺池地区と間米南部地区の 2 地区で住居系の土地区画整理事業に向けた調 査測量設計等を実施しており、早期の組合設立を目指している。	前後駅周辺の居住人 口 (500m 圏内)	5,921	6,121	6,121	6,121	6,100 人
都市計画課	22	新規	同居リフォーム促進事 業	同一敷地内若しくは隣接する敷地において 3 世代以上同居のためのリフォーム工事 に対し、一定額の補助を実施 (年度毎 3 件前後を想定)	補助件数	0	2	6	7	30 件 (累計)
都市計画課	23	新規	親との同居・近居購入 費補助事業	新築・購入の次年度以降 3 年度間における減額措置後の固定資産税相当額につい て補助を実施 (年度毎 255 件前後を想定)	補助件数	0	70	147	261	30 件 (年間)
都市計画課	24	新規	空き家リフォーム促進 事業	現在空き家若しくは当該工事着手前に転居することが決まっ ていて、かつ賃貸住宅に転用することが不動産業者等と締結されているなどの自己所有の戸建住宅を条件 とし、リフォーム工事費の補助を実施。 事業費は (平成 29 年度の空家等対策計画策定後以降で、事業費は国土交通省 (住 宅局住宅生産課所管) 「長期優良住宅化リフォーム推進事業」の補助率及び限度額 を参照) ※対象 790 戸 (H25 住宅・土地統計調査 豊明市戸建空き家総数) 平成 30 年度から解体費補助を実施。平成 30 年度は 1 件分 50 万円を当初予算に 計上。	補助件数	0	0	0	1	10 件 (累計)

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
都市計画課	25	新規	空き家対策の検討事業	平成 28 年度:空き家机上調査、特定空家等候補現地調査・所有者特定・意向調査、調査報告 【H28-30 実施計画重点事業】 平成 29 年度:空家等対策計画策定、(仮)空家等対策協議会支援業務 (平成 28 年度事業費内訳のうち、国費 1/2 充当の条件は、空家等対策計画策定することが条件であるため、当該計画策定を行わない場合、全額市費負担)	調査のため成果指標なし					
学校教育課	26	新規	Uターン促進事業	【大学等入学支援事業】 大学入学予定者に対し、入学金1人当たり30万円を上限に給付又は貸付けし、大学卒業後も市内に定住してもらい、市民税納付者になってもらう。(世帯の所得制限がある「学び応援奨学金(給付型)」と卒業後に豊明市に住んでいる期間は返還が免除される「ふるさと応援奨学金(貸付型)」の2種類あり) (実績参考) 28 給付 4 人/5 人定員、貸付 2 人/15 人定員 29 給付 5 人/5 人定員、貸付 3 人/15 人定員 30 どちらも 10 人定員に改めた	入学支援金の貸付給付を受けた学生が、大学等卒業後に市内に定住した人数	0	6	8	17	60 人(累計)

施策 2. とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	27	継続	古戦場まつり開催事業(観光協会事業)	歴史的観光資産である「桶狭間の戦い」を起点にした古戦場まつりの開催。毎年6月第1土・日曜日に桶狭間古戦場伝説地及び高德院等にて実施。土曜日は主に祭礼をおこない、日曜日は勇壮な武者行列、合戦再現劇などを行います。	来場者数	30,000	20,000	37,902	30,120	32,000 人/年
産業支援課	28	継続	甲冑製作補助事業(観光協会事業)	古戦場のまちとよあけをより身近に体験していただくため、ダンボールを使った甲冑製作教室を運営している団体への補助支援をする。この教室で作られた甲冑は古戦場まつりの武者行列参列時に活用される。	参加者数	30	30	26	30	30 人/年
産業支援課	29	継続	史跡を活用した観光拠点整備事業	プロモーションビデオを活用したインターネット拡散及びイベント等での放映。 ガイドボランティア待機所を活用した情報発信及び展示等の実施。 中京競馬場前駅、前後駅前にレンタサイクル、カーシェアの拠点を整備する。 レンタサイクルに関しては、市営駅前駐輪場事務所及び古戦場伝説地の案内所等にて貸し出し事務を実施する。また、観光パンフレットの配布等も併せて実施する。 カーシェアに関しては、民間事業者が実施しているカーシェアを利用する。 また、駅改札付近に、これらを誘導するような案内看板(外国語対応)も民間活用しながら設置する。	観光ガイドの利用客数	11,000	17,154	17,155	12,056	15,000 人/年

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	29	継続	同上	同上	レンタサイクル、カーシェアを利用した観光客数	0	2	3	36	500人(累計)
産業支援課	30	新規	桶狭間関連商品の開発事業	土産品については、既存商品の販売促進を行う。(イベント出店等) PR事業については観光まちづくり事業(継続事業)に含めた形で実施する。 フォーラムなどの開催は、大学連携を含め検討する。	フォーラム開催数	0	0	1	0	1
産業支援課	31	継続	桶狭間の合戦ウォーキングルート・拠点等の整備事業	【史跡を活用した観光拠点整備事業】 先行型事業によって、観光ルートを策定する。 ウォーキングマップについては、先行型事業の観光マップとの連動が必要となる。 ウェアラブル眼鏡、スマートグラス等のバーチャル体験については、バーチャル素材の開発が必要となる。いずれの事業も、観光まちづくり事業の継続事業で展開する。	観光関連ウォーキング参加者数	3,000	1,772	3,627	2,984	3,500人/年

施策 3. とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	32	継続	花の街とよあけの推進強化事業	商工会実施の花の講習会を継続的に実施する	講習会等の参加者数	1,000	2,100	2,771	3,020	2,000人/年
産業支援課	33	新規	花のふるさと納税事業	豊明花き市場や市内事業者と連携し、ふるさと納税のお礼の品に季節に合わせた花を入れる。併せて前後駅前広場等でふるさと納税「お礼の品」PR活動を実施する。また、駅前で花の販売等を行い、花の街であることもPRする。	ふるさと納税に対する花の送付件数	0	260	99	151	250件/年
産業支援課	34	新規	中京競馬場を利用した花マーケットの開催事業	豊明市で集客力のある中京競馬場を使ってシティセールスを行うため、とよあけ花マルシェによる出店を行い「豊明市＝花のまち」を来場者に印象付ける。	花マルシェの参加出店数	0	0	2	2	10回/年
産業支援課	35	新規	情報発信事業(観光事業)	観光Webサイトを作成する。(観光まちづくり継続事業)	観光Webサイト年間閲覧件数	0	0	42,601	55,375	2万件/年
秘書広報課	36	新規	ホームページリニューアル事業	①CMS 導入→ ・HPの階層整理が可能となり、情報が取り出しやすくなった。・発信している情報の整理ができた。・スマートフォンへの対応・総務省が推進している「みんなの公共サイト運用モデル JISX8341-3 2016」への対応が可能になった。・平成28年4月から施行となった「障害者差別解消法」にも対応可能になった。 あいち情報セキュリティクラウド接続対応のため、H29年度へ予算を繰り越した。 H29.6.30 にリニューアル HP 公開。	年間アクセス数	19万件	18万件	20万件	25万人	36万件/年
産業支援課	37	新規	イベント創出事業(サミット・シンポジウムの開催)	自治体交流及び市民PRのためにサミットを実施する。 サミットについては、物産展、PRキャラクターショー、観光PRの開催とシンポジウムを開催する。	サミット参加者数	0	0	273	0	3,000人/年

# 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

## ● 基本目標 3 子どもの学びと育ち創生プロジェクト

<基本目標の進捗状況>

指標	策定時 (H26 年度)	H28 年度	H29 年度	現状値 (H30 年度)	目標値 (R1 年度)
0～14 歳の子どもの数	9,749 人	9,052 人	8,964 人	8,789 人	10,011 人
豊明市の出生率（人口 1,000 人に対する出生数）	8.1 人	8.0 人	7.7 人	7.7 人	8.8 人
合計特殊出生率	1.42 人	1.45 人	1.38 人	1.46 人	1.53 人
子育てが楽しいと思っている市民の割合	84.5%	73.2%	84.5%	81.6%	88.8%
職場で働きやすいと思っている女性の割合	35.4%	35.5%	38.9%	42.6%	45.4%

<施策ごとの重要業績評価指標（KPI）の進捗状況>

施策 1. 子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

担当課・室	No.	事業名	事業内容	KPI ※事業実施による成果 指標（アウトカム）	KPI				目標値 R1
					H26	H28	H29	H30	
保育課	38	新規	病後児保育事業	病後児の預かり登録 人数	0	141	235	364	200 人(累計)
子育て支援課	39	新規	ネウボラ事業	支援プラン作成件数	0	31	19	13	100 件/年
保育課	40	新規	休日保育、延長保育事業	18:30 までの土曜日 延長保育実施園数	0	79	100	100	100%
子育て支援課	41	新規	産後ケア事業、産後健 診事業	産婦健診助成事業に よる受診率	0	77.5	98.6	103	95%
子育て支援課	42	継続	不妊治療への助成事 業	不妊治療助成件数	64	52	53	55	65 件/年
保育課	43	未	駅前での子育て世代支 援事業	前後駅前での保育施 設数	0	0	0	0	1
保育課	44	継続	社会参加への支援事 業	非定型的保育の利用 延べ人数	304	634	708	560	960
子育て支援課	45	継続	男性に特化した子育て 講座事業	妊娠期子育て期の親 向けの教室(マタニテ イクラス)参加者のうち 男性の占める割合	29.6	34.5	41.2	35.9	35%

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
子育て支援課	45	継続	男性に特化した子育て講座事業	【パパ向け教室の実施回数】 子育て支援課子ども支援係(子育て支援センター)や生涯学習課等と協議し、子育てのパパ向けの教室について検討する。	講座の開催回数	0	0	0	0	1回/年
産業支援課	46	未	企業への啓発事業	企業へのイクメン・イクボスの考え方浸透をはかるため、さまざまなメディアを使った露出度を向上させる。	広報及びHP、チラシ等によるイクメン・イクボス推進PR回数	0	0	0	0	4回/年
産業支援課	47	未	婚活支援事業	前後駅前広場活性化事業のひとつとして実施する。 ⇒No.59 駅前賑わい創出事業	婚活イベント参加者数	65	0	0	0	400人(累計)

施策 2. 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
生涯学習課	48	継続	放課後子ども教室事業	市内小学校児童を対象に放課後子ども教室を開校する。 児童クラブとの一体型による運用を行い、業務委託することで児童クラブに通う児童にも通いやすくなるなど、拡充を図る。	実施校数	5	5	6	7	9校
				趣味や特技を活かした講座の運営や児童の見守りなど、地域の人や保護者等にボランティア登録を推進する。	ボランティア数(人・団体)	18	39	13	13	40人(団体)
学校教育課	49	新規	土曜学習実施事業	毎月第2・4土曜日の午後、塾に通っていない中学生を対象に基礎的な内容の授業を開催する。	土曜学習参加者人数	0	88	84	75	60人/年
学校教育課	50	新規	英語活用能力アップ事業	・イングリッシュキャンプの実施 小学生を対象に市内でデイキャンプを、中学生を対象に豊根村の施設や自然を利用したオールイングリッシュでの研修をそれぞれ実施する。	イングリッシュキャンプ参加人数	0	10	29	27	40人/年
				・星城高等学校で実施される英語検定対策講座に市内小中学校の児童生徒の受検者を増やす同上	延べ参加人数	83	76	56	114	138人/年
生涯学習課	51	継続	地域の特性を生かしたスポーツ・文化講座の開設・充実事業	市スポーツクラブ及び指定管理者によりスポーツ教室を実施。 指定管理者 9教室、市 2教室を開催。 指導者は市内講師を中心に開催、市内施設を巡回し開催する軽スポーツ教室も実施している。	スポーツ教室受講者数	508	495	476	518	530人/年

## 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

### 施策 3. 女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる

担当課・室	No.		事業名	事業内容	K P I ※事業実施による成果 指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	52	新規	女性活躍推進セミナーの開催事業	商工会と連携してセミナーを実施する。 市民協働課との連携が必要。(女性活躍推進法)	セミナー等参加者数	0	69	69	69	20人(累計)
保育課	53	新規	女性の復職支援プログラム事業	保育士資格を持ちながら、現在保育士として働いていない者を対象に、大学等と連携し、1月程度の短期プログラムを開講する。併せて、豊明市内の保育園で短時間勤務保育士として勤務してもらい、再就職の支援をする。 なお、事業を設計する中で、潜在保育士の復職だけではなく、保育に興味がある者、無資格で保育園に勤務している者もセミナーの対象にし、豊明の保育の質及び量の確保に重点を置いて実施している。	プログラムを利用して復職した人の数	0	1	2	2	40人(累計)

# 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

## ● 基本目標 4 暮らしの満足創生プロジェクト

<基本目標の進捗状況>

指標	策定時 (H26 年度)	H28 年度	H29 年度	現状値 (H30 年度)	目標値 (R1 年度)
医療や福祉施設、制度の利用者の満足度	49.6%	54.9%	56.2%	49.1%	58.9%
市内の移動がしやすくなったと思う市民の割合	59.3%	59.8%	60.3%	60.7%	66.5%
自分たちの考えが地域の活動に取り入れられていると思う若者の割合	11.1%	17.7%	13.4%	12.5%	22.2%

<施策ごとの重要業績評価指標 (KPI) の進捗状況>

施策 1. 市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する

担当課・室	No.	事業名	事業内容	KPI ※事業実施による成果指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
健康長寿課	54	継続 いきいき笑顔ネットワーク事業	高齢者の医療・介護等に関する情報を、支援にあたる医療介護保健の分野の専門職で共有するための ICT ネットワークを整備・運用する。これにより、医療介護職の情報共有が密になり、多職種によるチーム支援が可能になっている。 将来的には、他市との連携、本人家族等がアクセスできるポータルサイトの整備、医療介護情報のデータベース化、分析ができるようにする。	ICTで情報共有できている患者(高齢者)数	392	575	660	680	600 人(累計)
健康長寿課	55	新規 医療・福祉・高齢者等の生活支援拠点整備事業(けやさいいきいきプロジェクト事業)	豊明団地を医療福祉の拠点とするべく、行政・UR・藤田医科大学が連携して取り組みをすすめている。団地内には、大学が住民の健康相談窓口として「まちかど保健室」を運営。大学の学生約 80 名が団地に居住し、コミュニティ活動に参加している。平成27年度に「北部地域包括支援センターブランチ」を設置。「豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし」を、平成29年7月に業務開始している。 本事業における医療介護連携、体制による取り組みは、団地だけにとどまらず、市内全域、や隣接町までに波及している。	高齢者等の相談件数	0	831	1479	1064	500 人/年

施策 2. 自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる

担当課・室	No.	事業名	事業内容	KPI ※事業実施による成果指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	56	新規 駅前賑わい創出事業	前後駅前広場で、地元事業者等の有志を中心とした花をモチーフにしたイベントやマルシェなど地域活性化イベントを年6回実施し、その運営費を委託する。 将来的には、法人化するなど自主的な運営を目指す。	マルシェの参加出店数	0	14	27	45	80 店(累計)
市民課・市役所出張所	57	新規 前後駅周辺の都市機能、住民サービス機能、市民交流機能等の充実事業	図書館で実施している出張所を前後駅前へ移転し、住民票の発行等市民課の業務以外の市役所の行政サービスのなかで移転できる物を精査し業務を行う。 なお、市民課以外の業務として税務課、保険医療課、福祉事務所各部門等を想定している。	出張所での証明発行率	0	8	8	8	20%

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 創生 63 事業一覧

担当課・室	No.		事業名	事業内容	KPI ※事業実施による成果指標(アウトカム)	H26	H28	H29	H30	目標値 R1
産業支援課	58	新規	駅前活性化事業	行政を始めとする多くの団体での駅前活性化イベント等の開催により、駅前の魅力を再度喚起し集客率を向上させる。それにより、駅前が常ににぎわう環境を創造する。	パルネス来場者数	1,624 千人	1,496 千人	1,447 千人	1,513 千人	1,800 千人/年
子育て支援課	59	継続	医療施設の充実事業	市内で出産・子育てをするのに必要な医療施設(小児科・産婦人科)の施設数を充実する。	小児科、産婦人科の施設数	3	5	5	5	5
企画政策課	60	新規	地域公共交通の利便性向上事業	・地域公共交通網形成計画の策定 ・コミバスの路線再編	コミバス利用者数	15 万人	17 万人	18 万人	18 万人	17 万人/年
防災防犯対策課	61	新規	コンビニAED設置事業	24時間営業のコンビニエンスストアにAEDを設置する。	24 時間営業のコンビニの AED 設置率	0	100	100	100	100%
市民協働課	62	継続	まちづくりNPO支援事業	【市民・コミュニティ提案型まちづくり事業】 市民提案型まちづくり事業、コミュニティ提案型まちづくり事業を継続して支援する。	年間支援件数	6	11	10	9	16件
環境課	63	継続	再生可能エネルギー推進事業	現在、エネルギーの地産地消を目指す市主導の新電力事業会社の設立等は考えておりません。再生可能エネルギーへの転換(=新エネルギーシフト)を目指した施策としては、住宅用太陽光発電システム等設置費補助金を設けており、新エネルギーシフトを実践する市民に設置費用の一部補助する事業を継続します。(補助金額:エネファーム一律 5 万円)	エネファーム(燃料電池)システム導入補助件数	1	20	40	60	50 件(累計)

次期「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定の基本方針

1. 現行の人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略について

◆人口ビジョン

平成 28 年 1 月に、2060 年に 61,000 人程度の人口を確保するとして「人口ビジョン」と、その実現に向けた 5 年（2015～2019 年度）の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。

◆総合戦略

総合戦略の進捗については、毎年度外部有識者、関係機関等からなる検証会議を開催し、地方創生推進交付金事業等を中心に事業の進捗状況及び重要業績評価指標（KPI）の達成状況について報告及び検証を行っている。

2. 次期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

現行の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間が 2019 年度となっているため、切れ目ない施策展開を実施していくため、令和 2（2020）年度以降の概ね 5 年を計画期間とした次期「人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する。

策定にあたっては、庁内で情報共有を図りながら検討を行い、策定の節目で「豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部会議」を開催し、協議を進める。

併せて、庁内での検討結果について、学識者（大学、教育）、労働団体、民間企業、金融機関、各関係機関等からなる「豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を開催し、外部有識者の専門的、客観的視点から意見交換を行い、計画に反映をする。

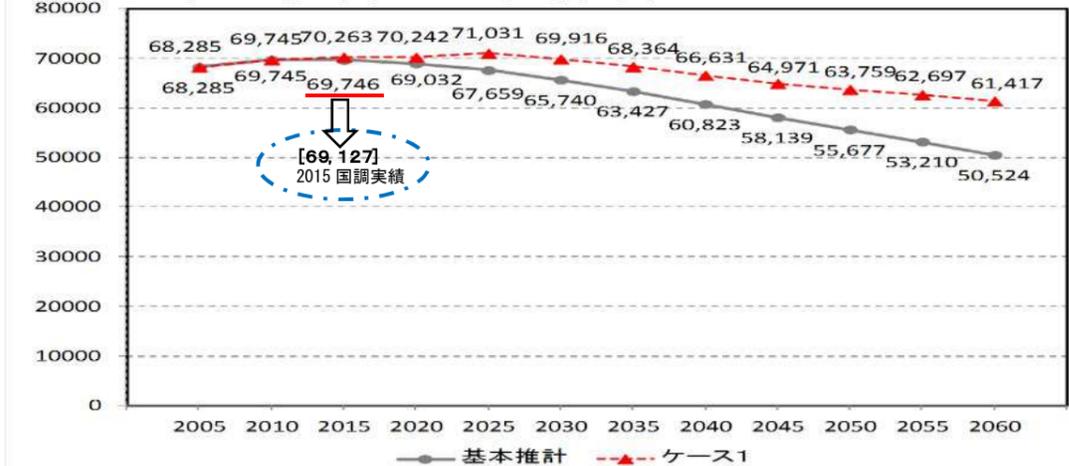
◆策定スケジュール

	令和元(2019)年度			令和2(2020)年度
	6～9月	10～12月	1～3月	4～7月
庁内検討	策定方針の検討	本部会議① 庁内での検討 [現行検証・次期方針]	本部会議② 本部会議③ [骨子] [素案]	本部会議④ [策定]
推進会議		推進会議① [現行検証・次期方針]		推進会議② [骨子・素案]
市民意見等	市民アンケート結果(総計)	調査結果を参考		パブリックコメント
国・県の動向	○(6/21) 国の基本方針の公表	○ 国の総合戦略の公表	○ 県の素案審議 ○ 県の総合戦略の公表	

3. 次期「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けた考え方

◆人口ビジョン

＜現行の豊明市の人口推計結果及び 2015 国勢調査結果＞



**人口ビジョンの目標要件**  
 ・人口目標 71,000 人以上の維持  
 ・2060 年に 61,000 人程度の人口確保

**今回の見直し方針**  
 現行の人口ビジョンを踏襲し、次期(3期)策定時に、再度推計を実施する。

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

現行の「基本目標」は維持しつつ、社会経済の変化や本市の現状、国の基本方針に基づく「新たな視点」を加味した「施策」、「事業」の見直し検討

**現行「総合戦略」の基本目標及び施策**

**基本目標①しごとと活力創生プロジェクト**（豊明市における安定した雇用を創出する）  
 ＜施策 1＞地域の経済活動が盛んなまちをつくる  
 ＜施策 2＞若い人たちの地元での就労を促進する

**基本目標②ひとが集うまち創生プロジェクト**（豊明市への新しいひとの流れをつくる）  
 ＜施策 1＞若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を活かしたまちづくりを推進する  
 ＜施策 2＞とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる  
 ＜施策 3＞とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす

**基本目標③子どもの学びと育ち創生**（プロジェクト若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる）  
 ＜施策 1＞子どもを安心して産み育てられるまちをつくる  
 ＜施策 2＞子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる  
 ＜施策 3＞女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる

**基本目標④暮らしの満足創生プロジェクト**（時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する）  
 ＜施策 1＞市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する  
 ＜施策 2＞子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる

